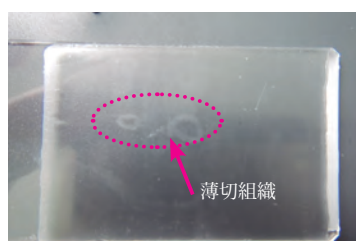


未染色標本の納品方法を変更します。

従来、パラフィン包埋組織から作製する薄切切片スライドは「薄切後のそのままの状態」で納品してきましたが、「パラフィンコーティングスライド標本」での納品に変更します（従来の納品を希望する場合には依頼時に連絡いただければ対応可能です）。
 納品価格、包装形態には変更ありません。

【導入目的】

- ・免疫染色等での抗原性維持に有効と報告されています^{※2}。
- ・薄切組織表面の保護



左図のようにスライド表面に薄層パラフィンコート形態での納品となります。
 外気・湿度との遮断が可能となり、組織中の蛋白、酵素類への影響が少ないと考えられると報告^{※2}されています。
 当社でも文献^{※2}と同じ性能を確認しました。

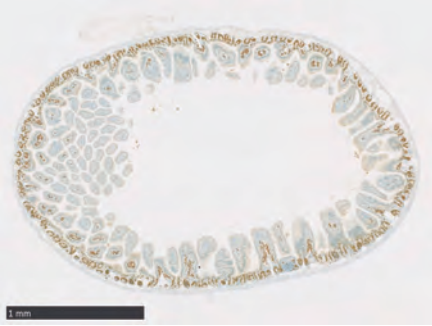

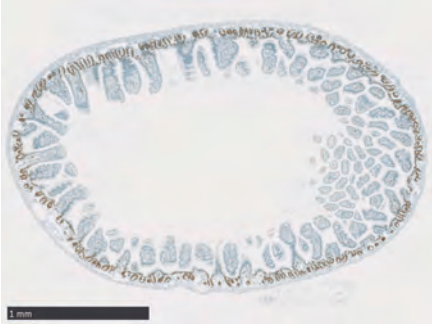
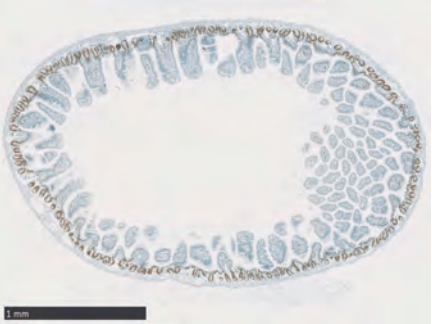
【納品されたスライドの脱パラフィン方法^{※3}】

- ・その1：パラフィンコーティングスライドを60℃インキュベーターに数分入れてパラフィンを溶解し、その後通常の脱パラフィン処理以降の操作を実施する（※2記載）。
- ・その2；通常の脱パラフィンのキシレン処理時間を多少長くする工夫が必要（25℃室温）

処理時間	未処理	パラフィンコート処理	備考
0秒	—	—	両者とも表面白濁
30秒	△	×	"パラフィンコート処理" 表面白濁
60秒	△	△	両者ともパラフィンが"わずか"に残存
120秒	◎	○	"パラフィンコート処理" スライド端に多少残存
180秒	◎	◎	表面上パラフィン残存、アーチファクトも確認されない
HE染色像			

・その3；自動免疫染色装置での脱パラフィン処理からの自動化対応

両者ともに綺麗に染色され、アーチファクトは確認されなかった。

自動免疫染色装置	未処理	パラフィンコート処理
Roche 社 ベントナ XT システム ベンチマーク		
Leica 社 BOND RX		

※3：本結果報告は、当社での確認結果であり、実際の運用に際しては事前に各施設での従来の脱パラフィン方法との比較検討をお願いします。